

気象と疾病の発生数の関係 および その時間的遅延に関する分析

Introduction

ゝ 気象と疾病の発生数の関係を明らかにするために
東京の地上気象観測データと
東京都感染症情報センターのインフルエンザ発生数のデータの
相関分析を行った

【利用データ】

提供データの東京の地上気象観測データ
インフルエンザ発生数データ

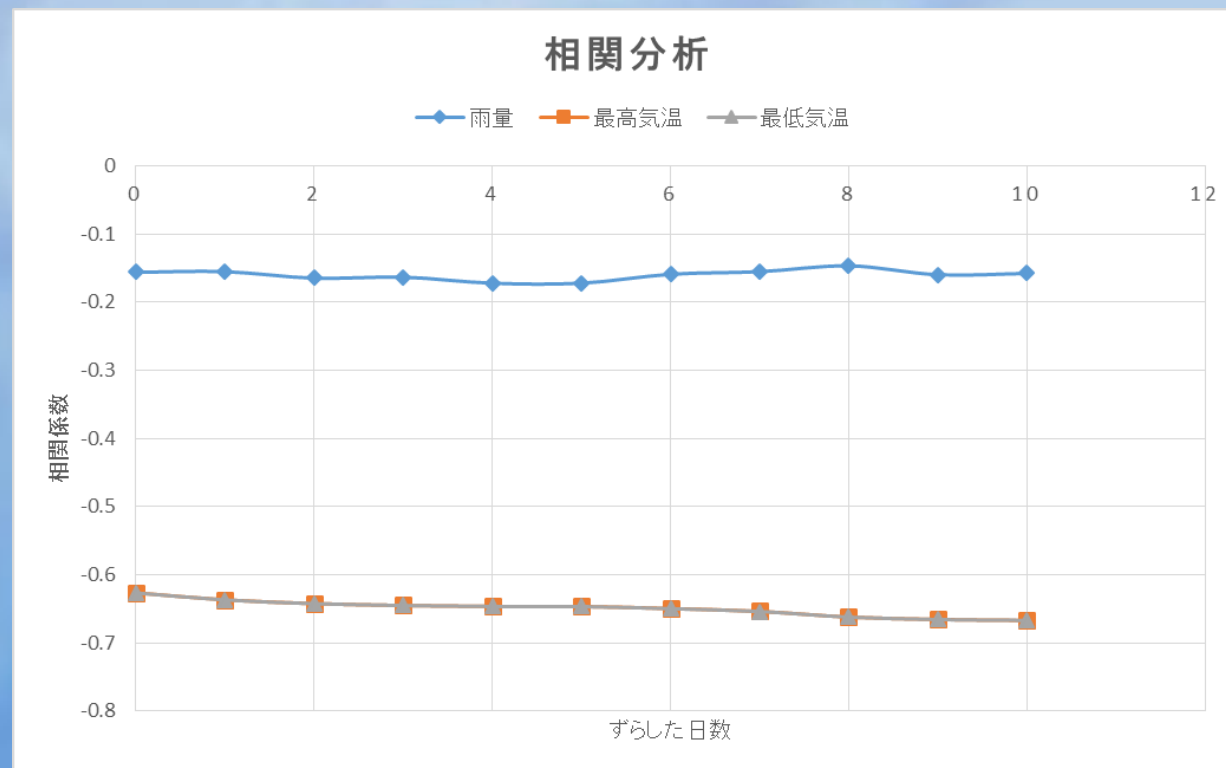
(<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/csvinfo.do>)

Method

- › インフルエンザ発生数データが週報告分であるため
気象データの時間をそろえるために
1週間の合計雨量，最高気温の平均，最低気温の平均
に対して相関分析した
- › 発生数と比較する1週間を同一の日付から1日ずつ前にずらし，
それぞれと相関分析を行い気象とインフルエンザ発生数との
相関関係の時間的遅延について分析した

Result

- › 相関分析より最高気温，最低気温ともに-0.6以下の値を示しており負の相関が存在する
- › 雨量に関しては相関係数は小さいが，常に-0.15近傍であり弱い負の相関が存在する



Conclusion

- › 相関分析により気象データとインフルエンザ発生数の関係として以下のことがわかった
 - 最高気温，最低気温との間に負の相関が存在する
 - 雨量との間に弱い負の相関が存在する
- › 気象と疾病発生数との相関関係の時間的遅延については利用できたデータが週報告数であったため正確な分析が行えなかった